

次世代に美しい自然環境を残す

我々は支笏湖で水中清掃活動を行っています。水中清掃活動自体は全国各地で実施されていますが、我々はただの水中清掃活動で終わらせず、GISを活用して湖底での活動記録をデータ化することで、ゴミの滞留ポイントを明確化し、自然環境だけではなく、知見も併せて残していく活動に取り組んでいます。

なぜ透明度の高い支笏湖で水中清掃活動を行っているのか？

生態系を壊すゴミが潜んでいる

支笏湖は全国的に見ても水が綺麗なことで有名な湖です。しかしながら湖底を見てみると、釣り糸に引っ掛かり浮上できずに死亡した水鳥がいる等、自然の生態系を人間が破壊されている状況です。



治療よりも予防を

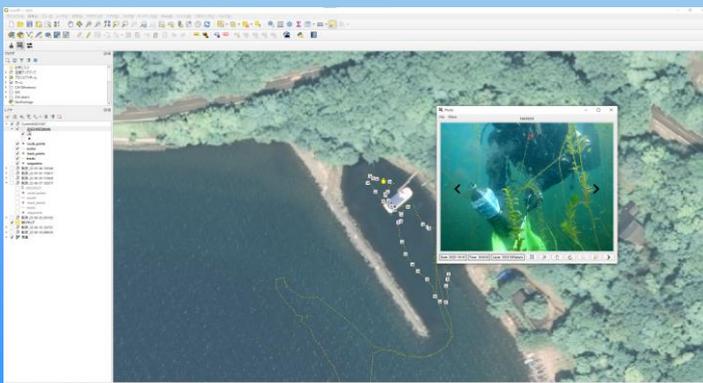
こうした湖底の現状を改善すべく、我々は支笏湖で水中清掃活動を実施しています（現状はボランティアでの活動となっています）。



『支笏湖型水中清掃活動』の内容

1 GISを活用した水中環境のデータ化

水中ではGPS電波が届かないため、水中環境の情報はデータ化されていないのが現状です。我々は綺麗な自然環境を残すだけでなく、ごみの滞留ポイントがわかるよう、水中環境の情報をGIS上に残し、データとともに後世に次いでもらうようにしています。



2 環境保全活動の講演

アウトドア関連のイベントなどに呼ばれて、水中清掃活動の具体的なお話や、GISデータ化に関する講演などを実施しています。



『支笏湖水中清掃』を持続可能な活動にするための事業化に向けた取り組み

■ 環境保全ツアーの開催



ファンダイビングやシュノーケルツアーなどのアクティビティを楽しみつつ、清掃活動も実施するツアーを開催しています。
海外では既に取り組みされていますが、日本でもこうした取り組みを広げていきたいと考えています。

■ 水中ゴミの資源化



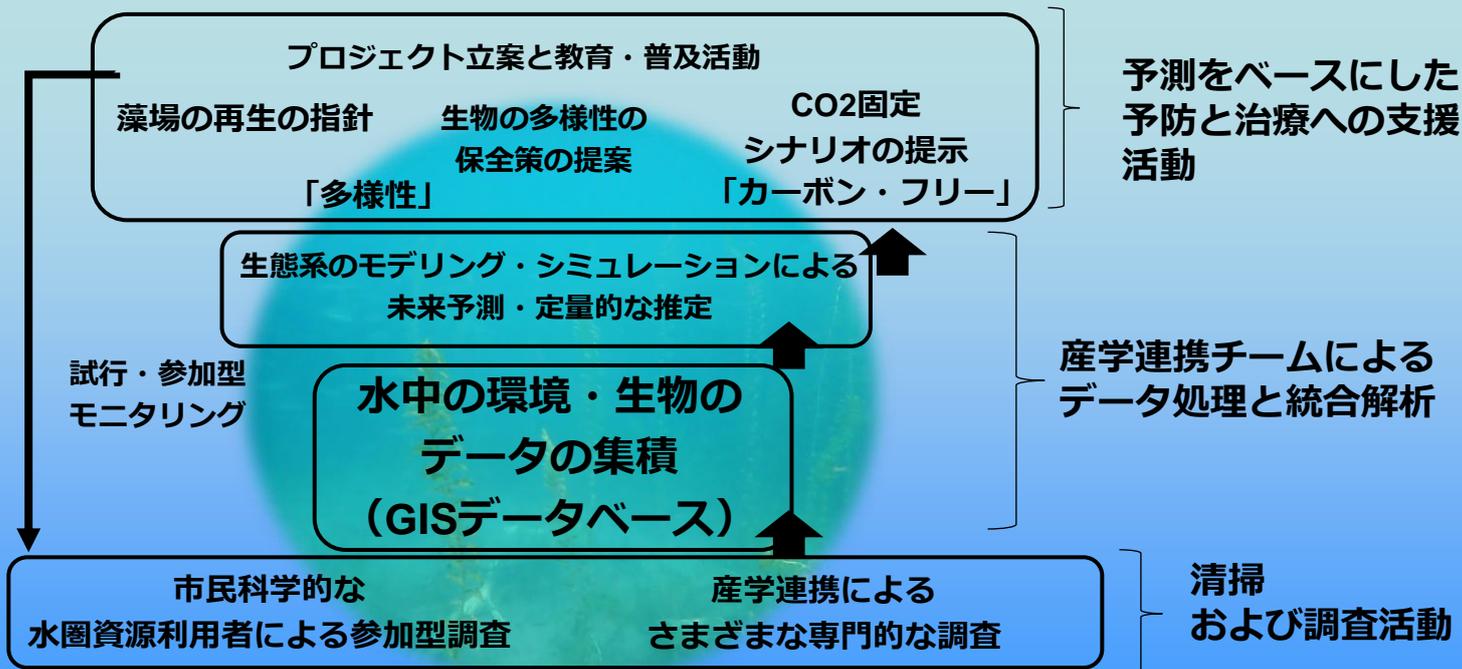
支笏湖はプランクトンの量が少なく、湖底に沈んでいるゴミの腐食が進まない特徴があります。
湖底に絡まったルアーの再販をはじめ、ゴミの中には1950年代に製造された空き缶など、今では逆にプレミアがつくようなものもあり、こうした資源の再活用に取り組んでいます。

■ 藻場再生の水草移植・管理



橋梁、栈橋工事などで藻場に影響がある際に、北海道大学水産学部の知見をお借りしながら、水草が生育しやすい環境への移植作業を実施しています。
藻場の地点もGIS上にマッピングし、データ化しながらの生育管理も実施しています。

カーボンフリーとSDGsに向けて...『ブルー・アシスタンス』



協力：北海道大学 水産科学研究院 水産開発研究コアユニット (FDC)



お問い合わせ先はこちら

オーシャンデイズ

〒066-0281
北海道千歳市支笏湖温泉番外地
TEL 080-9325-6507



<https://ocean-days.com/>